

「西東京市を住みやすいまちNo.1にするためには」のシリーズ第二回 「西東京市の良いところ、改善したいところの整理」

2013年8月18日（日） 於：ひばりが丘公民館講座室2 10時～13時

参加者：大野晃、小林力、古林、Kai、鹿島、はつぎわ、高橋一樹、出ッ所、則武、中野、三島、富沢

○議事次第

1. 前回参加していない方、途中から参加の方、スマイル大学初めての方など、議論のための共通の基盤が出来ていないところから始まった。
2. 手持ち資料の説明、前回の内容紹介。
3. 主に、西東京に在住している方に今回参加した動機や、現在住まわれて感じる問題点などを話してもらった。
4. その後、何か一歩踏み出すためのアイデアは無いか（自分がリーダーになれないとしても、こんなことならやれるのでは）について話し合った。

○配布資料；

1. 武蔵野市が作成した近隣市との比較資料（2009年版とちょっと古い）
2. 西東京市の地図
3. 西東京市都市計画プラン（*）
4. 則武提案（*）（*）は2人に1つ

○手元資料（以下は、WEBで見ることができる）；

1. 島根県海士町のビジョン
（これまで行政とIターン者がリードして島づくりをしてきたが、いよいよ地元民が自分たちのまちを良くするために動いて欲しいと、別冊で「一人でできること、10人でできること・・・などを整理」。また、島の住民には気づきにくい、島の良さも整理）
2. 三重県名張市国津地区のビジョン
（名張市は、大阪のベッドタウンとして発展してきたが、そのなかで国津地域は山側で過疎が進んでいるなか、学校教諭や行政マンなどの若手が自分たちで地域ビジョンを作成。「人口が増えている名張市のトトロの森になろう」というビジョンを物語として描いた。→読んだ住民がそのビジョンを実現するために、それぞれがやれること一小学生に田植え体験等々を考えてやるようになった）
3. 東近江市地区福祉計画の経緯を示した瓦版
（市の福祉計画の基本はあるが、社協の呼びかけで、各地域の人たちがそれぞれの福祉計画を議論を重ねて作成、中学生の座談会なども：中学生もまちづくりに声かけしてほしいなど）
4. 西東京市の財政白書 23年度版
5. 西東京市の第二次基本構想・基本計画案
6. 西東京市合併10年のあゆみ
・青山さん、野村さんからのメモ

1. これまでの経緯説明

- (ア) 昨年から FS (フューチャー・セッション：10 年後私たちの生活がもっとワクワクするために) を実施してきたが、当日盛り上がるが次の一歩につながらない。
- (イ) そこで「住みたいまちNo.1にするには」とテーマを変えれば、GAP を埋めるなど少し具体的になるのではないかと、シリーズを変えてみた。
- (ウ) 8月4日(日)に第一回を実施したところ、貴重な意見も得られた。しかし、やはり雑談で終わってしまうのではないかと、則武さんから、たとえば皆で良いと思う場所の写真などを持ち寄って、ここをもっと良くするにはと話し合うようにすれば、もう少し皆が作業しあうなど、具体的になるのではとの提案があった。
- (エ) 今回は、則武提案を意識して、「良いところ、改善したいところを整理しよう」ということで集まった。
- (オ) 前回の議論の中で、西東京市は、「都心に近い田舎」：東京なのに緑が多い、寛げるまちではないかとの意見があり、則武さんからは、「都心に一番近い田園都市ー便利で寛げるまちを目指して」という仮タイトルの提案があった。
- (カ) しかし、実際には、緑も小平等に比べれば多くない。本日までのネットの議論でも、住みやすくはあるが、特色がない。一口に西東京市といっても、住んでいる地域によって、中央線沿線の方が便利であるなど、行政区とは違っているのが実態ではないかとの意見もあった。

2. 新たに参加した方等からの発言 (また前回と同じ雑談になるのではとの意見もあったが、いろいろな方のお考えを聞きたいと富沢が強行)

(ア) <小林> 前回出席した武田さんから行って見たらと言われて来てみた。ひばりが丘の北に住んでいる。行政の基本構想はできているが、自分なりに地域のこと考えてみたいと思っている。市会議員のマニフェストなどを見ても、自分の地盤に気を使っているのはわかるが、西東京をどういうまちにしたいのかというビジョンが欠如している。

(イ) <鹿島> どういうまちにしたいのか、まちづくりの目的が見えない。西東京市の内側からまちづくりを話すと欲望ばかりが先行する。外部から見る(どんなまちか) 観点も必要なのではないかと思う。

自分は、やはり人が動く、賑わいがあることが大切だと思っている。田無駅周辺でも、遊んでいる空間がある。これを活用するだけでも違うのではないか。たとえば、馬券売り場、郵便局の二階など。

下野谷遺跡でも、公園は東伏見なのに、出土した土器などは、西原の郷土館に展示している。これでは、誰も利用しない。

自分は、広報の配布をしているが、一度西原に集めてから、各地区に分配して

おり、雨が降ると 1 日遅れたりする。東久留米では、公民館ではなくコミセンだが、コミセンがどんどん行事を発信しているのに、西東京市では、全館まとめて出すので、遅い。これでは、市民がいろいろやっていることを他の人が知るのが遅くなる。社協だよりは 3 ヶ月に一回だ。スピード感が大事。小平市や武蔵野市も、コミセンニュースなどが独自にやっており、速い。

●情報力弱い→市民は行政の動き分からない

→行政も市民の動き分からない

(ウ) <古林> 向台に住んでいる。工場跡地の再開発で、周りにたくさんマンション群が出来、子育て世代が増えている。今日も自分は、吉祥寺のハモニカ横丁の朝市に行ってきたのだが、増えている子育て世代が、地元で何か楽しめると思えるまちだったら良いと思う。墨花居が地元野菜の朝市を店の前でやっているが、そういうのがもっと広がると良い。

駅前を綺麗に整備するという話については、自分は、勤務先が三鷹で、三鷹の南口も昔はごちゃごちゃしていたのに、再開発できれいになってつまらない景観になった。しかし、路地裏には、古いビルを改築して面白い店もできている（パン屋とか古道具屋とか→でもこのアパートも取り壊されてしまったが）。駅から離れたところ（駅からコール田無くらいの距離）で、古いビルをリフォームし新しい店が出来ており、子育て世代のたまり場になっている。自転車で行けば、少し駅から離れていても、面白い店があれば子育てママでも大丈夫。

西荻も、隣に吉祥寺があるが、閑静な住宅街にポツンポツンと面白い店が点在していて、それを地図に示して、外からでも、また行きたいと思うまちである。

(エ) <中野> 自分は今高齢者向けの仕事をしており、高齢者が住みやすい町を考えている。西東京市は、オレオレ詐欺ワースト 1 であり、いわば犯罪都市。

先日、山口の実家に戻ったら、バス停は 2 キロも離れているし、人がいない。西東京は、人がいるがあいさつはしない。UR は人付き合いしたくない人を増やしている。高齢者のことを考えると、近隣で間に合う、商店街がイキイキしている三丁目の夕日のようなまちが望ましいと思う。西東京市には、遊ぶところは全くないので、自分は、遊ぶのは、池袋や秋葉原にまで出かけているが、日常生活はここでしている。

合併したが、保谷と田無とでは、人々の意識が違う。保谷は地元意識が強い。保谷さんという苗字など、地元のもともとの人が多い。この地域に根付かせたいなどと思わない（もともと根付いている）。一方、田無は、成り立ちが外部の人が作ってきたまちなので、人を呼び込むまちであり、その人たちを根付かせようという意識が生まれる。

西東京市の財産は、やはり「人」なのではないかと思う。映画の佐藤 純彌監督など、有名人もいる。こういう人を活用すると良いのではないか。

(オ) <大野>自分は、泉町に住んでいる。今日は、皆がどんな話をするのかと覗きに来た。高齢者や子育てするまちとして、一番大事なのは、「安全」ということではないかと思う。人つながりが薄い。安全なまち、周囲の人とあいさつすることから。昔自分は練馬に住んでいたが、その折には、もう少し近所とのつながりがあった。

- 小学生の登下校の案内をしているが、あいさつをしない子が多い。全体の顔が分かれば、何かあった時に対応しやすいのに。
- 学校では、知っている人には、あいさつしなさいと教えるが、知らない人には、声を掛けられても返事をしないように教えている。でも、学校に行くと先生が父兄である私に挨拶しなかったりする。子どもは、大人を見ているかも。
- 富沢が岩手県藤沢町に行った時には、下校の子どもが明らかに部外者とわかる私に皆あいさつする→怪しい人と思われるのかと却って緊張する。
- 団塊の世代から上の人は、一戸建て住宅から集合住宅に住み替えたいという意向が強い。団塊の世代が60~80になるまでの間に、人口も減少するし、住み替えが進む。
- 共働きをしていると、一戸建て住宅は維持管理が大変・不便、家に人がいる前提でできている。
- ともかく、人口は減少するわけだし、今でも日中人口は少ないことを考えておく必要がある。

(カ) <出っ所>現在の西東京市を念頭に置くのではなく、全部ご破算にして、住みたいまちってどんなまちかを考える必要があるのでは。商店街が元気な方が良い。スーパーやコンビニのように画一的で話もしないのではなく、散歩しながら、対面で話し合えるのが良い。道は、歩道や自転車道が区別されているのがよい。電柱は地中化が良い。理想のまちを掲げ、それに近づく努力をしていったらよいのではないか。

(キ) <高橋>現在は、小平に住んでいるが、前は、ひばりが丘の北口に住んでいて、道が狭くてぐちゃぐちゃしており、自分でも怖いくらいだったので、高齢者や乳母車を引いている人とかには、怖いだらうと思った。

- 駅からバス停までが遠い。これは新座市との関係か。現在、北口開発が進んでいるがハモニカ横丁風で面白みはある。一方通行とか、まったく車を止めるとかしても良いのでは。
- ひばりの北口、田無の南口も開発計画が進んでいるが、現在の猥雑さを失うのは寂しい気もする。
- ひばりが丘北口開発にあたっては、まちおこしのチャンスだと思って、当時、行政・商店街・地権者などを集めて会合をしたりしたが、行政が地域コーディネーターのような人も用意していた。しかし、結局地権者や商店街が立ち上が

らなかったという経緯がある。チャンスを失したと自分は思っている。ロータリーが出来て、駅がバリアフリーになるのは良いことだと思うが。議会での議員の発言を聞いても、地権者の利益を代弁するような含みのある意見が出るだけで・・・。

3. 一步踏み出すためのアイデア出し

(ア) <富沢> まあ、いろいろ出てきたが、実際に自分がリーダーになって興味のある分野を進めてくれれば一番ありがたいが、忙しくて、自分が主体的に動かなくても、それぞれが考える住みたいまちに向かって、何か一步踏み出すためのアイデアはないでしょうか。必要があれば、少し調べるとか、他地域の動向を知るとかは、私がやってみてもよい。

(イ) <古林> 思いつきだが、今、杉並区がやっている雑木プロジェクトをやれたらよいなと思っている。余裕がある家が雑木を植える。それをマップにして散歩道にする。緑を増やすことにもつながる。スポットには、農家の屋敷林などがある方に頼んで、そこにベンチなどを置いてもらい、どうぞお休みくださいなどとする。離れに、椅子や灰皿などを置くとか。公園に木陰がないという話もあったが、涼むことができ、如いては地域の拠点になるかもしれない。

<http://kami-igusa.jp/zoukimichi01.html>

- オープンガーデンは、確かやっていて、地図もあるのでは。
- あれは、確か、コンテストをやったのでは。
- http://www.city.nishitokyo.lg.jp/enjoy/spot/open_gardens.html
- 小布施がやっている。

(ウ) <鹿島> 心に響く、文化的なことを考えた方が良いのでは。たとえば、五日市街道は、見えない財産がある。それは、パーク、青年俳優座、トマト・・・などなど、劇団が沢山あることだ。「劇団街道」とでも銘打ったら面白いのではないか。下北沢にも負けないほどある。確かに、劇場ではなく、劇団があるだけだが、広いスペースもあり、そこで子供たちのワークショップなどをやっても良いのではないか。駅からは遠いが、魅力がでてくれば、近づいてくるものだ（大宮、川口、小手指、拝島：この文脈不明）。

「わんぱくすもう」なども、ずっと歴史があり、勝っている？行政の広報に載せるだけでなく、もっと情報発信を上手にやって北海道からでも人が来るようにしたらよい。せめて多摩地域だけにでも、発信を上手にすべき。

(エ) <はつざわ> 小平も下手だ。

(オ) <則武> 交通の便を良くする意味で、開発すべきところはやるべきだと思う。その上で、路地裏などに面白い店ができるのが良い。

自分は、行政がやることに反対するのではなく、自分たちでちょっと考えてや

ればまちが良くなることがあるのではないかと考えており、そういうのを必要なら少し研究して実施したらよいと思う。

スマイル大学が今やっている HUG（避難所運営ゲーム）も僕が防災の SIG（スペシャル・インタレスト・グループ）を立ち上げ、分からないので、他でやっていることなどを勉強した。その中に、静岡県開発の HUG があった。他でやっている、使えるものなら、それを活用したらよいと思っている。

まちの景観を良くするなら、個々の家が木を植える、花を植えるでもよいし、味気ないブロック塀に歴史をテーマにまんががちつくに描くでもよいのではないか。

(カ) <小林> B 級グルメをやってはどうかと思っている。食文化は、アピールしやすい。効率がよい。「西東京」という冠をつけた焼きそばとかラーメンとか丼など。もちろん味に特色が必要だが。キャベツが特産ならキャベツでもよいし。それらをアンテナショップに出せばよい。個々の店が工夫をして、それを MAP にする。

- 小金井丼というのをやっていて、黄金色がテーマだが、各店が工夫を凝らし、期間限定で売っている。クリが名物でクリかりんとうもある。
- 昨年、「キャベツの粉」で新しいお菓子をつくろうとやったが、キャベツは色も味も飛んでしまい、キャベツらしくない。行政が旭成果に作らせたキャベツと小松菜のかりんとうも、バーベキュー味にしてあるが、わざわざキャベツでもない。
- 今、西東京野菜をつかって何かをつくる事業をやっていて、説明会と参加者を募った段階だと思う。これは、どこかのコンサルが主導しており、どうかと思うがやっていることはやっている。
- 一店逸品のおかげで売り上げは 30% 伸びたともいわれる。商工会が選定したわけだが、商工会は元気あるのだろうか。→ 親の世代が残っていて、提案はなかなか通らないとも聞く。春日部市が元気？
- キャベツの粉とかにしたのが悪いので、キャベツなら、キャベツを使っている店に声を掛けたらよいのでは。ロールキャベツとか、お好み焼き屋とか、タンメンとか、そういう店にキャベツで特別なメニューを開発してもらえばよいのでは。（なお、ここで言わなかったが、小平は、ブルベリーで行政主導でやっているが、お菓子やさんなどは、地元産は高いので、結局他産地のブルベリーを使っており、発祥の地の農家が怒っていると聞く）

(キ) <富沢> 自分は、はなバスというか、コミュニティ交通についてももう少し調べようと思っている。合併の目玉のような形ではなバスを走らせたが、毎年赤字で、8 月から値上げをした。「交通弱者のため」と言っているが、社協の方に言わせると、病院や健康診断場所になる福祉センターなどにバス停がない。結局、通勤に遠い元気な人のために走らせている。本当に交通弱者のために必要なものなのか。小平では、コミュニティバスは 1 ルートしかない。しかし、昭和病院や駅に不便な

人たちから提案があって、ブルーベア号を走らせている（ワンボックスカー）。タクシー会社と連携し、ルートも料金も自分たちで考えて、補助金の上限（500万円）に叶うよう工夫をしている。行政は、それに法的な問題などがある場合、情報提供するなど、ワン・オブ・ゼムとして参加している。西東京市の場合には、交通課と福祉課の縦割りがそのままになっている。別の方法がないものか、検討するなど、協働しようという意識がない。小平市では、この会合を傍聴してもよいというので、10月の会合に参加してみようと思っている。

一方、西東京市では、車いす等の本当の交通弱者には、タクシー券を出したり、そういう方向けの車を運営する NPO 等に補助して移動できる方法を増やしている。だから、コミュニティバスはいらないのかもしれない。

- タクシーに相乗りした方が安く済む。

(ク) <富沢> 田無の時代に、カルタが作られていたが、作って終わり、文化として定着していなかった。西東京カルタを作って、毎年大会をすとかしてはどうかと思うが、学校では、こういうことをやってくれるだろうか。

- 学校は、そんな余裕がないと思う。百人一首は、全国大会もあり、授業でやっている。児童館の方が良いかもしれない。
- スマホカルタの方が良いのでは。
- カルタを子供たちに作らせることでまちに親しみを覚えるかもしれない。
- カルタより、すごろくとか、人生ゲームの方がよい。
- きらっとで展示会をして、学区ごとに見せ合ってはどうか。最初に自分の住んでいる近くでつくり、場所を交換してもよいかも。子どもたちがまちの知らないことを知るきっかけとしては良いかもしれない。
- 毎年同じものでゲームをしても面白くない。半年後別バージョンになれば。継続してリリースするなど。ゲームを目的とするのか、作るのを目的とするのか。
- 授業でまちを歩いて、危険な場所マップを作成することはやっている。犯罪や防犯のため。小金井公園の木には、番号が振ってあり、迷子や事故の際に番地として使っている。
- ピーポくんの家というのは、知っているけど、あれは警察？。
- ピーポくんの家は市が保護者の会、地域、PTA、育成会、防犯協会の協力の下に設置しているようです。ただ、犯罪があった時にいつでも飛び込める家という意識だと受け入れる側にハードルが高いようで、近年ピーポ君の家は減少傾向です。

特に警察との連携があるわけではなく、ピーポ君のおうちのかたが、普通に110番、119番します。ピーポ君の家登録者は、怪我などをした際に保証があります。ピーポ君の家マップが公開される事もあります。これも個人情報さらされると、登録者減の原因のひとつのようです。

- (ケ) <鹿島>西東京在住の人で、子どもたちに使ってもらおうと、きのことかきつねとか、いろいろなキャラクターを作った人がいる。それは、たぶん資料館などにある。これを使えるのではないか、寝かしているのは、もったいない。「いこいなちゃん」とか「めぐみちゃん」は、著作権の問題などで市民が自由に使えない。
- (コ) <Kai>東久留米では、確か、毎月第四土曜日とか決めて七福神めぐりをしている。スタンプラリーで2万人くらい集まる。子どもから年寄まで。8キロを歩く。ボランティアがついて説明する。散歩のルートができています。

<http://7.longseller.org/c/67.html>

http://www.city.higashikurume.lg.jp/topics/2012/121101_topics_04.html

- もしかすると、毎月ではなく、毎年かも？（富沢）
- シンエイ、エクラなどのアニメ制作会社めぐりも良いかも（西武沿線には、多いので、練馬とか、いろいろなところがもうやっているけど）。
- 西東京市のプロモーションビデオはまだ作られていないのでは。景観の良さとか、アニメが多いとか、劇団が多いなど。確か小平はやった。則武さんが個人的にやり、スマイル大学も作ったけど。
- 「小金井コンパス」という HP（インターネット新聞）がある。前の佐藤市長の時に作られたと思う。小金井は坂が多いのだけれど、毎月決めた坂を取り上げて、散歩する人を募り、坂の特徴などをレポートしている。小金井百景などを市民が写真入りでレポートしている。（富沢：今はちょっと傾向が違ってきているのかもしれない）

<http://www.koganeicompass.com/>

<http://www.koganeicompass.com/坂の途中で会いましょう/>

- 西東京市でも、面白いものを見つけたという写真を皆でアップするページを作ってみたらどうか。サイクリングロードにたてかんぱん的なものがあり、額縁状に切り取られていて、そこからのぞくと木のある風景が見えるという試みのようです。宣伝や周知がされておらず、もったいない。ポストに「これは本物です」と書いてあるのがあったり（早速 FB にアップしてくれ、そういう企画に賛同の声もあったのでここに拝借しました!(^^)!）。



(サ) <則武> そうやって面白そうなことや人を取り上げて、まちに親しみや愛着を感じても、別に引っ越してくる人が増えるわけでも、商店街が活性化するわけでもないのではないかと思うが・・・。

- 外から見て、いいところだなと思う人がいれば、住みたいと思ってくれるかもしれないし、住んで税金払ってくれるかもしれない。若い世代が魅力を感じてくれるのではないか。

4. 三島さんのポストイットのメモ

- 情況
 - 交通の便が良い、ある程度は周り（他市）に任せてもよい
 - 西東京といえば、シンボリックな存在
 - 全員が一致する課題を探そうとしない
 - ○○だけは、西東京が一番だというのは、できれば魅力になる
 - 世代も環境も違う人が集まっている。共通意識をいかに感じさせるか
 - 10人で来月からできる活動案をコンペにする
 - イベントにしてみる「もし・・・だったら」
 - 似た課題を持った人が内容を詰める
 - 小さな活動実績を積み重ねる
- 会議のやり方
 - フォーマットを作り、それぞれが論点を整理して持ち寄る
 - 10の活動を決め（コンペ）やってみる（自分の案に協力してもらい、他の案に協力する）
 - 思いつきは大事だが、収集がつきづらい。次回のお出席を確認、予定を前倒しに。
 - OST（テーマの細分化）
- プロダクトから
 - 形にできることから対象を絞る

- ニーズから
 - 周りのまちでやっていない考慮されていない層へのアプローチ
 - (子供、労働者、高齢者、障がい者、外国人、ママ、独身、学生、フリーター)の住みたいまち
 - あなたは誰に何を届けたいの
 - それぞれが最優先に考えているのは
 - 1つに絞って、我々でできることを考えたら
 - 影響を与えることのできる活動でできることは
 - あれもこれも「はじめの一步」は何から

